
我が母に捧ぐ。

来々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我が母に捧ぐ。

【Nコード】

N5746B

【作者名】

来々

【あらすじ】

母が死に、私は何も考えられずにいた。それでも母は、私を見守ってくれている。（以前投稿し、削除した作品をもう一度掲載させていただきます。）

お母さん。

私が産まれたとき、貴方は私より先に泣いたそうですね。

私が産まれる直前まで、苦痛に顔を歪めていたというのに、貴方は誰よりも先に私の命を喜んでくれました。

有難う母さん

小学生のときの私は典型的な「いじめられっ子」で、毎日学校から泣いて帰っていました。それでもこうして、グレずに生きてこれたのは、貴方がいたから何ですよ？

有難う母さん。

中学生のときの私は、いつの間にかいじめられっ子からいじめっ子になっていました。知っていましたか？

あのときの私は、貴方を裏切っている自分が嫌いで、嫌いで仕方ありませんでした。

母さん、

思えば親不幸な私です。

思えば裏切ってばかりです。

そんな私にも妻ができ、子供を授かり、ようやく貴方に孫の顔を見せられると思っていました。

母さん、

見ていますか？貴方のように笑顔の似合う私の子。貴方に孫を見せたかった。

逝くな！！と言っ願いは叶いませんでした。

だからせめて、貴方は上から、私達家族を見守って下さい。

あー、あー

えー、それではここで、喪主である長男の祐一様よりご挨拶を頂きます。

「……………皆様、本日は暑い中、母、吉江の葬儀にご参列頂き、まことに有難うございます。こうして沢山の方々に見送ってもらえる母を見て、つくづく愛されていた人だったのだなあと思います。本日は本当に有難うございました。」

「……………皆様、……………皆様どうか母の事を忘れないで下さい。母の笑顔をおれないで下さい。母の声を忘れないで下さい。私の母が

皆様の心の中に生きていて欲しい。そう切に思います。」

葬儀も終わり、私は泣いて、泣いて、泣いた。妻とも一言も会話をせずに泣いた。そんな私をみて、泣き虫な私をみて、夢に母が出て来た。

母は怒っていた。
笑顔で怒っていた。

「愛する一人息子が泣いていたら、天国に行けない。」
と母が言った。

「なら逝くな!!」
と叫んだ。

母は少し困った顔をした後、もう一度だけ笑い、そして消えた。

朝、

目が覚めて横にいた我が子の笑顔は、夢で見た母の笑顔だった。

味噌汁の臭いにつられていった台所にいた妻。振り返ったときの笑顔は、夢に出て来た母の笑顔だった。

私の愛する人々に、母が生きていた。

有難う母さん。

これからも、私達家族を、見守っていて下さい。

（後書き）

皆さんこんにちは。来々です。今回の作品は、以前に投稿した作品なのですが、この当時の私は、この作品に納得がいかに、思わず削除しました。ですが今回、軽く手を加えてみると、なんだか好きになれそうだったので、再投稿となった訳です。こんな馬鹿な私ですが、次回もご期待下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5746b/>

我が母に捧ぐ。

2011年2月3日15時15分発行